

～官民学協働のツキノワグマ被害防除活動～

(取組主体名) 猪去自治会

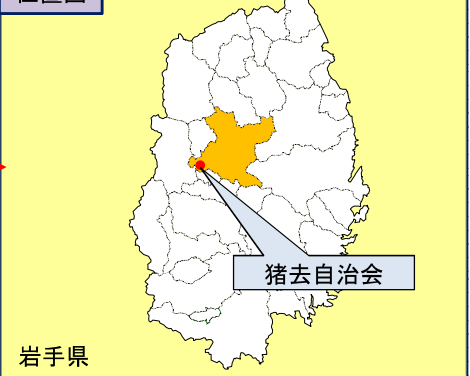
(所在地) 岩手県盛岡市猪去地区

■ 組織のプロフィール

猪去地区は、盛岡市の西側に位置し、水稲やりんごの生産が盛んな地域である。

およそ20数年前からツキノワグマによる農作物被害に悩まされてきたが、平成18年に起こったクマの大量出没を契機に行政（市）が仲介役となり、ツキノワグマ被害防除活動の取り組みを毎年行っている。

位置図



1. 取組のきっかけ

- 活動の契機は、平成18年に起こったクマの大量出没。盛岡市内では同年、計23頭のクマを捕獲したが、猪去地区では市内の約半数にのぼる出没・捕獲となった。同地区はりんご生産が盛んであり、大量出没に伴う食害も甚大であった。また、頻繁な人里への出没による人身被害発生の危険性も高まっていた。
- このような状況から行政（市）が調整役となり、平成19年から有害捕獲のみに頼らない「官民学協同」での被害防除活動が始まった。

2. 取組の内容と特徴

- 自治会、岩手大学農学部（教授、学生）、盛岡獺友会、市（農政課、環境企画課、市動物公園）による緩衝帯整備、電気柵の設置及び維持管理作業（電気さく周辺の下草刈、電圧チェックなど）を年4回に分けて実施。
- 岩手大学農学部教授による、クマを中心とした野生動物に関する講演や、啓発活動。
- 岩手大学学生サークル（ツキノワグマ研究会）による、猪去地区のクマに関する行動研究発表。
- 地元農家の後継者を中心とした被害防除活動の担い手の育成活動。

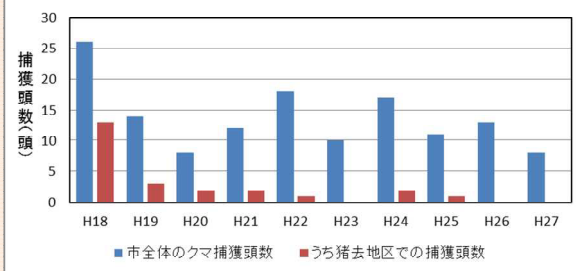


電気さく講習会の様子

3. 被害及び捕獲推移

- 取り組みが始まった平成19年度は、リンゴの食害が甚大であったが、平成26年度においては農作物被害は軽微（被害額算定不能）、捕獲に至ってはゼロ（市全体では13頭捕獲している）と、取り組み成果が十分発揮されている。
- クマの捕獲頭数については左のグラフのとおりであり、平成19年以降、激減しており、特に平成26、27年度においてはゼロとなっている。

クマ捕獲頭数の推移



4. 課題と今後の展望

- 新たにニホンジカやイノシシの目撃情報などが出てきているため、現在の枠組みを有効に活かしながら、引き続き新たな野生動物への防除対策にあたっていきたい。
- 人が代替わりしてもこの仕組みを継続していくことが大切だと考えており、今後も各団体の協力を得ながら、地域ぐるみの被害防除活動を継続していきたい。